



情報提供資料

TDAMフォワード・ルッキング・リサーチ

債券運用部 ストラテジスト兼ファンドマネージャー 浪岡 宏

2019年6月24日

～FOMCの参加者も迷い気味～

2019年6月18～19日に開催されたFOMC(米連邦公開市場委員会)では、市場の大方の予想通り、政策金利の誘導目標が2.25-2.50%に据え置かれました。

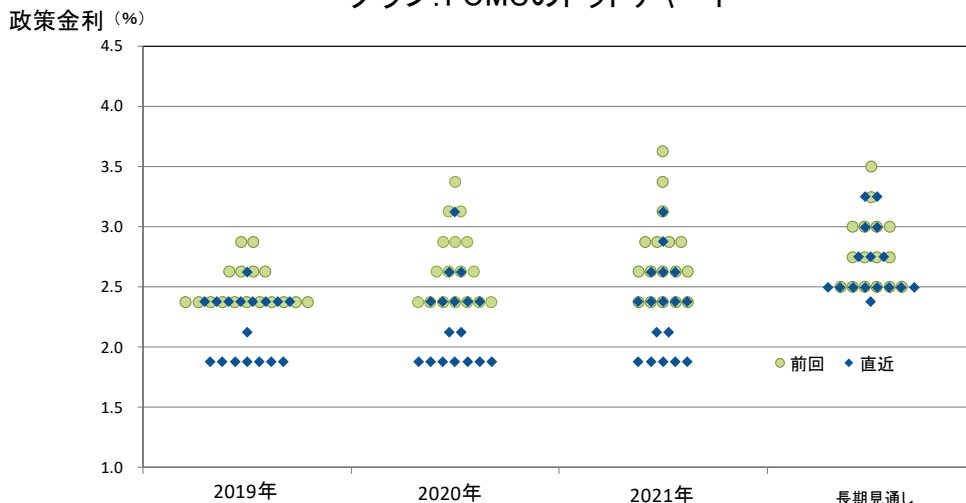
一方、会合終了後に公表された声明文では、先行きに不透明感が増していることが指摘され、これまで用いられてきた「辛抱強く」という文言が削除されました。記者会見の冒頭でパウエル議長はこの文言の削除について「重大な変更」と言及しています。これらのことにより、FOMCが利上げの効果を見極めるというスタンスから、不確実性の増大に対して利下げ等の柔軟な対応もあり得るというスタンスに変更したものと受け止められます。

もっとも、下記グラフのドットチャート※は、FOMC参加者の間で見方が分かれていることを示しています。前回(3月時点)のドットチャートでは、参加者のほとんどが政策金利の年内据え置きを予想していましたが、今回は7人が年内に0.50%の利下げを予想する一方で、8人が年内据え置きを予想するなど、見方が大きく分かれている点が特徴的でした。

米国では、景況感指数などの経済指標が軟調に推移しているものの、史上最高値圏にある株価は、利下げを意識した動きであると見受けられます。今後、市場の想定通り利下げが行われれば、株価は底堅く推移すると思われるかもしれませんが、利下げが見送られれば、相応の好材料が出てこない限り、株価の下落を招来するリスクがあると考えます。

米国で年内に利下げが行われるか否か依然として不透明な部分があり、また様々な不確実性も高まっていることなどから、株価は方向感の出にくい展開を辿るのではないかと見ています。

グラフ:FOMCのドットチャート※



※ドットチャート:FOMCにおける今後の政策金利の推移の見通しを表したもの

出所:FRB(米連邦準備制度理事会)等の各種資料をもとに、T&Dアセットマネジメントが作成

【ご留意事項】本資料は、T&Dアセットマネジメントが情報提供を目的として作成したご参考資料であり、投資勧誘を目的としたものではありません。したがって、個別銘柄に言及した場合でも、関連する銘柄の当社ファンドへの組入れを約束するものでも、売買を推奨するものでもありません。本資料は、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。本資料は、当社が信頼性が高いと判断した情報等により作成したものです。その正確性・完全性を保証するものではありません。本資料中の数値・グラフ等の内容は、過去の状況であり、将来の市場環境等を示唆・保証するものではありません。本資料は作成時点での見解であり、今後予告なく変更する場合があります。ご投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断ください。